

(社)日本原子力学会
第25回倫理委員会議事要旨

日 時 H18.3.25(土)9:00~13:00
場 所 日本原子力研究開発機構大洗研究開発センター F - Cerveaux 5階控室2
出席者 北村、大場、班目、安濃田、磯輪、小沢、鐘ヶ江、作田、辻、鳥飼、中安、
萩原、別府、三好、矢野の各委員(15名)
志賀松(傍聴者)

配布資料

資料 25 - 1	第24回倫理委員会議事要旨(案)
資料 25 - 2	「倫理規程」を改定すべき点について(意見)
資料 25 - 3	倫理規程の英文化について(改訂方法の提案)
資料 25 - 4	事例集タスクチームの今後の活動について
資料 25 - 5	CSRタスクチームの今後の活動について
資料 25 - 6	ホームページの拡充策について
資料 25 - 7	学会活動の倫理審査について
資料 25 - 8	倫理研究会について
資料 25 - 9	企画セッション質問票ほか
資料 25 - 10	企画セッションアンケート
資料 25 - 11	第5回原子力に関する倫理研究会報告書
資料 25 - 12	事例集の販売について

議事

1. 資料 25 - 1 の前回議事要旨を確認した。
2. 資料 25 - 2 により、新たに委員から寄せられた倫理規程に対する検討意見の紹介があった。今後の改訂作業の進め方は次のようにすることとした。作成中の事例集を第6回倫理研究会で使用し、事例と照らし合わせてみたとき表現に問題がないか等、研究会の出席者の意見を集め、提出済みの意見と一緒に対応策を決定する。基本的には委員間のアンケートで意見を集約していくが、委員会の場合でも重要な点はできるだけ議論することとする。なお、前回の改訂作業の終盤は細かい点にばかり注目していたきらいがあるので、委員全員が現時点で今一度じっくり通して読んで欲しいとの要望があった。
3. 資料 25 - 3 により大場副委員長から倫理規程英文の改訂方法についての提案があった。英文の原案は大場副委員長が作成し、班目幹事、安濃田、鳥飼、辻、中安の各委員が責任をもってコメントし、案を練り上げる。最終的には杉本元委員やスコット・クラーク教授の助言を得て、ネイティブスピーカーにも違和感のないものとする。なお、クラーク教授の協力を得た場合はその旨をどこかに明記し、英文表現もしっかりとした検討を経たものであることが分かるようにすべきとの意見があった。

- 4．資料 25 - 4 により作田委員から事例集タスクチームの今後の活動について提案があった。タスクチームメンバーは作田委員を取りまとめ役とし、北村委員長、大場副委員長と鐘ヶ江、辻、三好の各委員とすることとした。活動内容としてはホームページには文章のみの簡素なものを PDF ファイルで掲載し、ほかにレイアウト等も工夫した冊子を作成・販売することとした。続いて資料 25 - 12 により大場副委員長から事例集冊子の販売計画の提案があった。検討の結果、内容についてはタスクチームで早急に詰め、a 社にレイアウト等の相談にのってもらおう。その後、印刷所ほかの出版計画は大場副委員長が萩原委員と相談して決めることとした。なお、倫理研究会や企画セッションを冊子宣伝の場として活用することとし、それに間に合うよう準備を進めることを確認した。相談にのってもらった場合、a 社の貢献について冊子に記載するのは当然であるが、無理のない範囲で対価を支払うべきとの意見があった。
- 6．資料 25 - 5 により中安委員から CSR タスクチームの今後の活動について提案があった。タスクチームメンバーは中安委員を取りまとめ役とし、磯輪、小沢、鳥飼、萩原の各委員とすることとした。活動内容についてはタスクメンバーで相談し、次回委員会で提案することとなった。
- 7．資料 25 - 6 により大場副委員長からホームページの拡充策の提案があった。タスクチームを作ることにし、大場副委員長を取りまとめ役として、作田、鳥飼、矢野の各委員をメンバーとすることにした。どのようなソフトウェアを購入するかとか、a 社に技術支援の依頼をしたらどこまで依頼するか等については、タスクチームに一任し早急に決めることとした。
- 8．資料 25 - 7 により班目幹事から原子力学会の活動についての倫理審査のあり方についての提案があった。倫理委員会は企業における品質保証室のような監査をミッションとする組織ではないことを明記する前書きをつけて、班目幹事から企画委員会に資料 25 - 7 の内容を提出することとした。
- 9．資料 25 - 8 により大場副委員長から第 6 回倫理研究会についての提案があった。検討の結果、第 3 期の間の行事すべてについて大枠を決めておくこととした。ただ、これまで行事担当者が何をすべきなのか手探りで準備していたため負担が大きかったことを反省し、行事準備のテンプレートのようなものを大場副委員長が用意することとした。第 3 期の間の行事については基本的には次のようにすることとした。

開催時期	行事	内容	主担当 / 副担当
2006 年 7 月	第 6 回倫理研究会	ケーススタディ	中安 / 三好
2006 年 9 月	秋の大会企画セッション	ケーススタディ	作田 / 磯輪
2006 年 11 月頃	第 7 回倫理研究会	CSR ?	小沢 / 鐘ヶ江
2007 年 3 月	春の年会企画セッション	学会活動の倫理 ?	安濃田 / 鳥飼
2007 年 7 月頃	第 8 回倫理研究会	ケーススタディ ?	矢野 / 萩原
2007 年 9 月	秋の大会企画セッション	ケーススタディ・倫理規程 ?	

2006年11月頃 第9回倫理研究会 CSR?

第6回研究会については、事例集を用いたケーススタディを主な内容として7月24日に松山で開催することとした。関連して委員会の地方開催も地元の声を聞くためもっと積極的に考えるべきとの意見があり、別途考えていくこととした。

10．資料25-9、10により大場副委員長から年会企画セッションの進め方やその場で実施するアンケートの内容等の説明があった。アンケートの集計は小沢委員と矢野委員が行い、学会誌の報告記事は作田委員と北村委員長が担当することとした。

11．資料25-11の第5回原子力に関する倫理研究会報告書について意見交換を行った。CSRの解説書として優れたものなので、大いに宣伝することとした。

12．美浜事故に関しフォローアップの提言等を今後検討することとした。

13．次回は5月24日午後東京で、また次々回は7月25日午前に松山で開催することとした。